

ニューノーマルにおける 新たな治療の選択肢

第90回アトピー性皮膚炎・小児食物アレルギー・喘息講演会とQ&A

参加無料
要申込（先着500名）
2021年6月6日（日）
13:00~16:00
オンライン開催（ZOOM）
※オンラインでの参加が難しい場合は
当会事務局までご相談ください

【第一部】講演

アトピー性皮膚炎の治療～外用治療の基本と新薬の話題～

みつい ひろし

三井 浩先生

（東京通信病院皮膚科部長）



小児食物アレルギーの予防と治療の最前線

おおや ゆきひろ

大矢 幸弘先生

（国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長）



気管支喘息治療の最前線：新しい配合剤や抗体製剤を中心に

やまぐち まさお

山口 正雄先生

（帝京大学ちば総合医療センター第三内科（呼吸器）教授）



【第二部】Q&A 参加者の皆さんからの質問に講師がお答えします

※お申し込みの際に質問をご記入ください。当日チャットでの質問も受け付けいたします。

司会

さかもと よしお

坂本 芳雄先生

（ふれあい横浜ホスピタル院長）

えとう たかふみ

江藤 隆史先生

（東京通信病院皮膚科客員部長・あたご皮フ科副院長）



後援

厚生労働省

東京都

公益社団法人日本医師会

一般社団法人日本アレルギー学会

公益財団法人日本アレルギー協会

独立行政法人環境再生保全機構

公益社団法人日本皮膚科学会東京支部

申し込みはこちらから

・申し込みフォーム→



・当会ホームページ

<http://allergy.gr.jp/archives/1945>

主催 / お問い合わせ先

認定NPO法人日本アレルギー友の会

東京都江東区住吉 2-6-5 インテグレート村上3階

TEL 03-3634-0865 / FAX 03-3634-0850

毎週火曜日・土曜日 11:00 から 16:00（祝日除く）

ホームページ：<http://allergy.gr.jp/>

e-mail：j-allergy@nifty.com

講演内容

アトピー性皮膚炎の治療～外用治療の基本と新薬の話題～

みつい ひろし

三井 浩先生（東京通信病院皮膚科部長）

【講演内容】

アトピー性皮膚炎はここ数年で外用（コレクチム®）、内服（オルミエント®）、注射（デュピクセント®）で新薬が発売され、多くの治療法が選択できるようになっているが、基本は外用療法である。外用療法の難点はその手間にあるが、様々な工夫によりADの多くはコントロール可能である。この講演では、AD診療ガイドライン2018に基づいた標準治療について、新規薬剤を含め、外用薬の効果的な使用方法を中心に概説したい。

【略歴】

1996年	東京大学医学部医学科卒業	2010年	東京大学医学部付属病院皮膚科・講師
2003年	東京大学大学院医学系研究科外科学卒業	2011年	聖マリアンナ医科大学病院皮膚科・講師
2006年	National Institutes of Health, Department of Dermatology 留学	2013年	同愛記念病院皮膚科・部長
		2019年	東京通信病院皮膚科・部長

小児食物アレルギーの予防と治療の最前線

おおや ゆきひろ

大矢 幸弘先生（国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長）

【講演内容】

この10数年間にわたり、二重抗原暴露仮説（食物抗原による経皮感作が食物アレルギーの原因となり食物抗原摂取による経口免疫寛容の誘導が食物アレルギーを予防する）を裏付ける研究データが世界中で次々と発表され、食物アレルギーの予防と治療の常識にパラダイムシフトが起こった。克服の見通しが立ったかに思えたが、従来の食物アレルギーとは全く異なる病態（原因不明）の消化管アレルギーの増加により、医療現場は新たな課題に直面している。

【略歴】

1985年	名古屋大学医学部卒業 半田市立半田病院研修医	1995年	国立小児病院アレルギー科医員
1986年	名古屋大学医学部小児科（87年-90年大学院）		（ロンドン大学聖ジョージ医学校公衆衛生科学部上級研究員兼任）
1991年	国立名古屋病院小児科医員 （1995年ハーバード心身医学研究所短期留学）	2002年	国立成育医療センター・第一専門診療部アレルギー科医長
		2018年	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・アレルギーセンター長

気管支喘息治療の最前線：新しい配合剤や抗体製剤を中心に

やまぐち まさお

山口 正雄先生（帝京大学ちば総合医療センター第三内科（呼吸器）教授）

【講演内容】

喘息治療において、この数年のうちに新たな配合剤吸入薬や抗体製剤などが導入されました。従来の薬剤では喘息の症状が残っていた患者さんにおいて、これらの新規薬剤を使って症状が改善することも多く経験します。新しい薬剤を良く理解し、継続していくことが大切です。

【略歴】

1987年	東京大学医学部医学科卒業	1998年	山梨県立中央病院アレルギー内科医長
1987年	東京大学医学部附属病院内科研修医	1998年	東京大学医学部附属病院アレルギー・リウマチ内科助手
1988年	茨城県日立製作所日立総合病院内科研修医	2008年	東京大学医学部附属病院アレルギー・リウマチ内科講師
1989年	東京大学医学部附属病院物療内科医員	2009年	帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科 准教授
1994年	米国ボストン Beth Israel Hospital 病理学研究者	2011年	帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科 教授
		2020年	帝京大学ちば総合医療センター第三内科（呼吸器）教授

ご参加に
あたって



1. PC またはスマホがあればどこからでもご参加いただけます。
スマホの場合はWiFi環境があることをご確認ください。

2. 当日参加できなかった方は、後日動画配信をいたしますので**6月6日講演会動画希望とお名前とメールアドレス**をご記入いただき当会メールアドレスまでご連絡ください。

3. Q&A では、お申込み時にいただいた質問と当日のチャットでのご質問に専門医がお答えします。**時間の都合上、すべてのご質問にはお答えできないことがありますのでご了承ください。**